

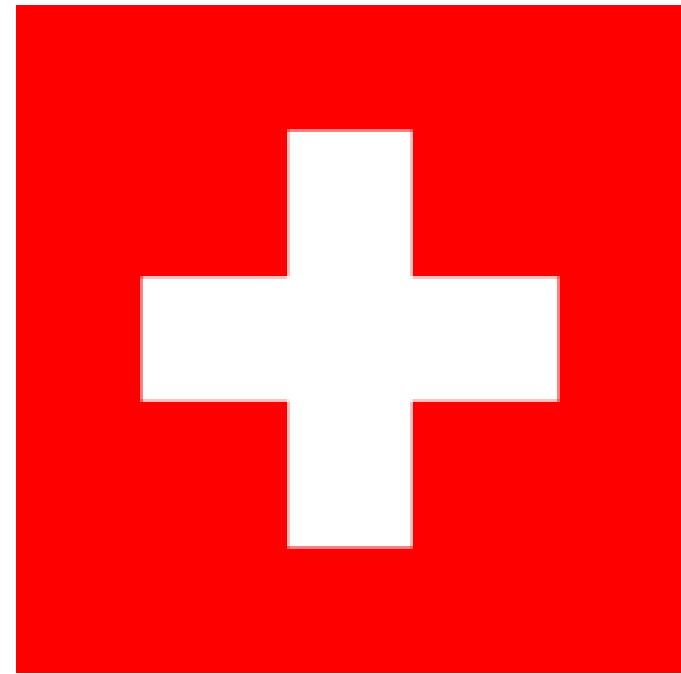
赤十字の防災・減災へのチャレンジ

事業局 救護・福祉部 災害対策企画室

参事 白土 直樹



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society



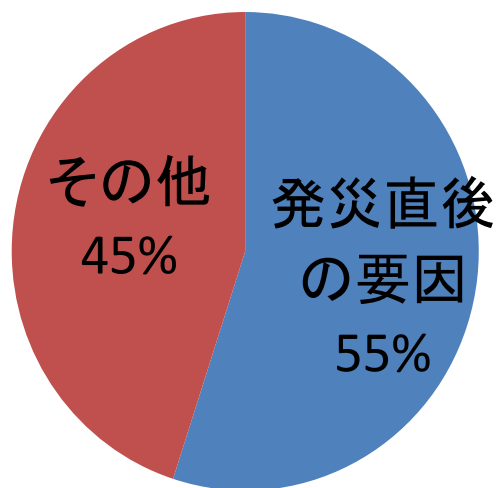
要するに赤十字とは

- 人道を実現するための民間のムーブメント(運動体)
- 7つの原則に基づき活動

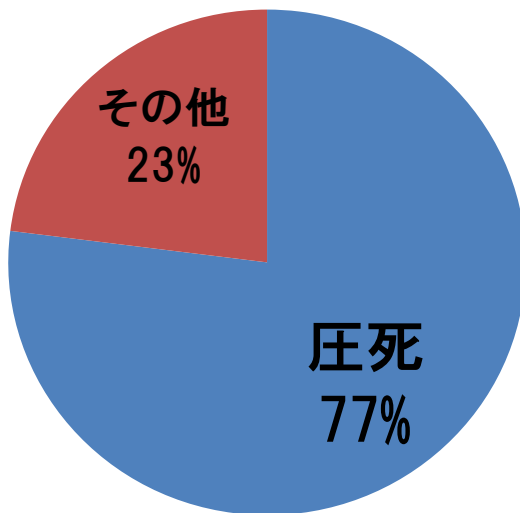
人道
中立
独立
奉仕
単一
世界性

大規模災害における犠牲者の死因

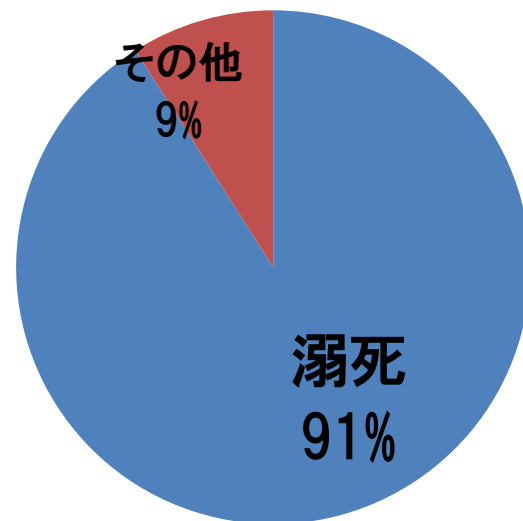
新潟県中越地震



阪神・淡路大震災



東日本大震災

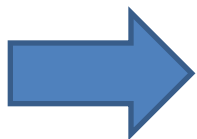


出典:国土交通省北陸地方整備局HP

出典:国土交通省近畿地方整備局HP

出典:平成24年警察白書

教訓



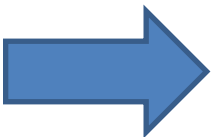
災害が大規模になるほど、
外部からの支援で救える
いのちは少なくなる

過去の大規模災害の事例

阪神・淡路大震災：
**神戸市の被災者のうち、8割以上は地元住民
が救助**

東日本大震災：
「釜石の奇跡」
**「津波てんでんこ」の教えで避難訓練を重ねて
きた釜石市内の小中学校の児童・生徒の生存
率99.8%**

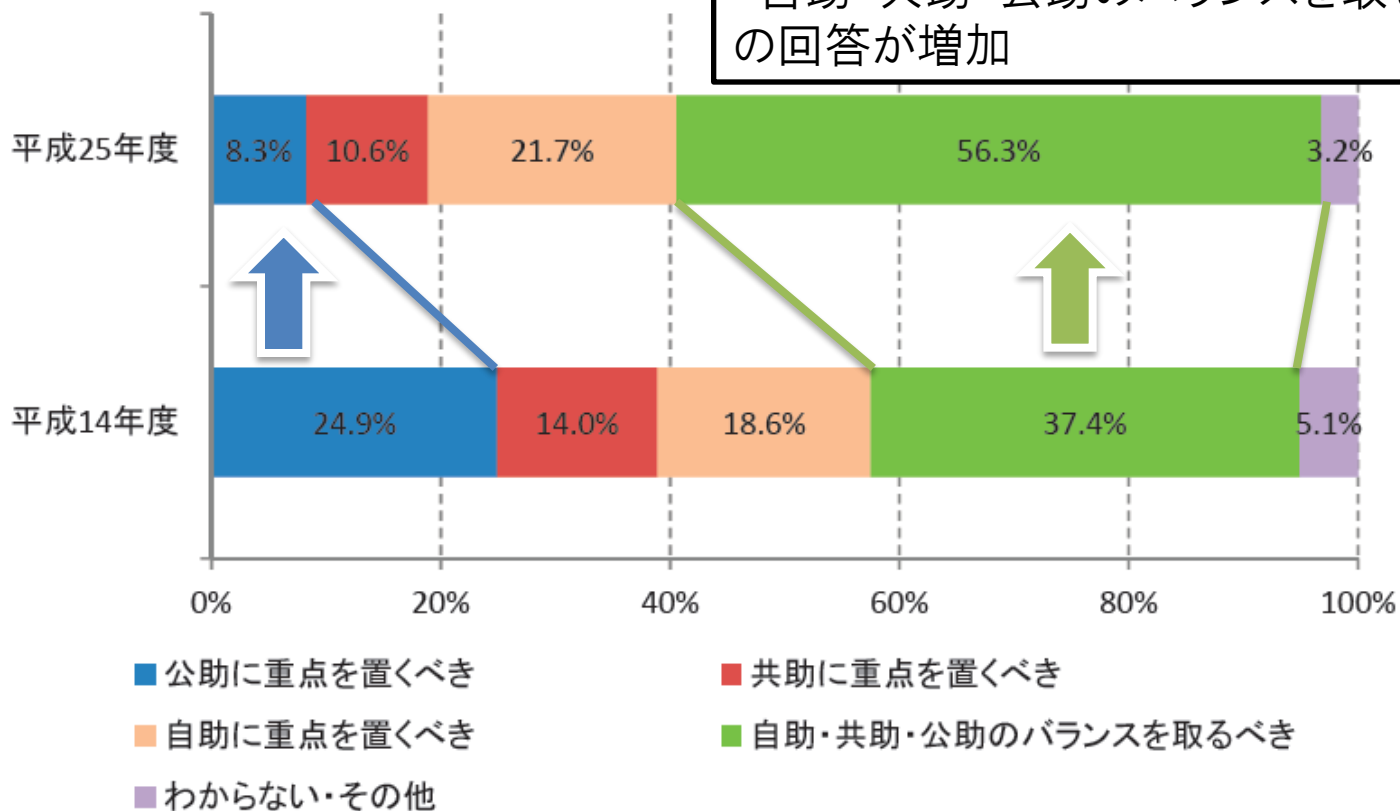
教訓



外部からの支援が期待できない
大規模災害の初期に重要なのは
「自助」「共助」の力

防災に対する国民の意識

「公助に重点を置くべき」の回答が減少し、
「自助・共助・公助のバランスを取るべき」
の回答が増加

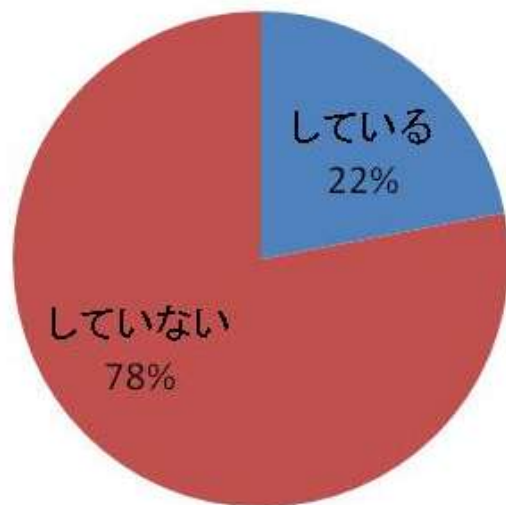


出典：内閣府(2014)「防災に関する世論調査」より作成

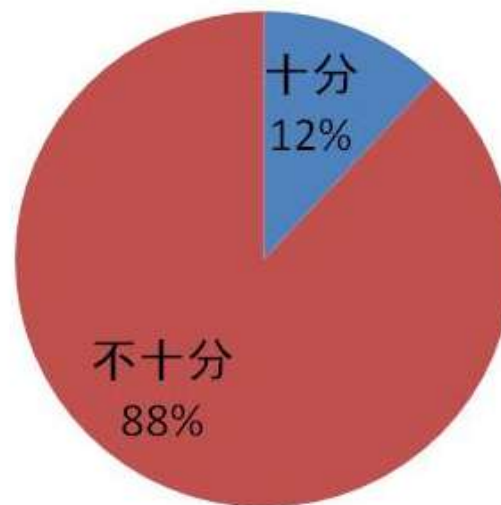
国民が重点を置くべきだと考えている防災政策(平成26年防災白書より)

防災に対する国民の行動

家具や家電などの
転倒防止措置



災害への備えは
十分か？



平成25年NHK世論調査より

東日本大震災を経験して国民の防災意識は変化したか、命を守るための具体的な取り組みはあまり進んでいない。

将来、高い確率で発生が懸念されている

首都直下地震や南海トラフ
地震などの巨大災害



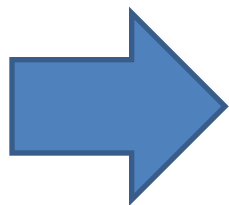
人々のいのちを守るためには

日ごろの地域コミュニティ単位での
防災教育の実施

「知識」、「意識」、「意欲」を高め
「行動」を変容
⇒「自助」「共助」の力の向上



日赤の防災教育で期待される成果



- ・自らが負傷者・要救助者にならないこと
- ・助かったら率先して地域のリーダーになること、あるいはリーダーに協力すること

一般成人市民への防災教育の基本要件

- 短時間で、
- 地域に密着して、
- 従来の防災教育で欠損あるいは不足しているカリキュラムを行う

過去の災害事例に基づく必要な教育要素と 具体的カリキュラム例

過去の災害事例に基づく 必要な教育要素

1. 災害時に地域で発生する被害とその対応方法の理解・習得

2. 地域の脆弱性とリソースの理解

3. 災害プロセスとリーダーの役割の理解

4. 組織運営の在り方とリーダーの資質の理解・習得

5. 災害時に行政から提供されるサービスの理解

必要な教育要素に対応する 具体的カリキュラム例

●災害エスノグラフィー

過去の災害における被災者等の時系列対応プロセスから災害経験を学ぶ(追体験)

●DIG (Disaster Imagination Game) ≡ 防災マップ

居住地域の地図を使って災害時に役立つリソースや危険地域、要支援者等の居住場所などを把握する(行政が作成・提供するハザードマップも活用可能)

●被災者救助・救出方法

地震により倒壊した建物から、例えば車のジャッキなど身近なものを利用して被災者を救出する方法などを習得する

●災害を想定した救急法

止血やAEDなど生命に直結する救急法

(ICSの基本や行政サービスの情報提供など。今後検討予定。)

日本赤十字社防災教育事業 実施カリキュラム(平成26年度時点)

災害エスノグラフィー (約120分)

読み物を通じて被災の具体的なイメージを把握・理解する。

地域防災マップ作り(DIG) (約120分)

自分の地域の脆弱性と防災リソースを把握・理解する。

救出・搬送・応急手当 (約60分)

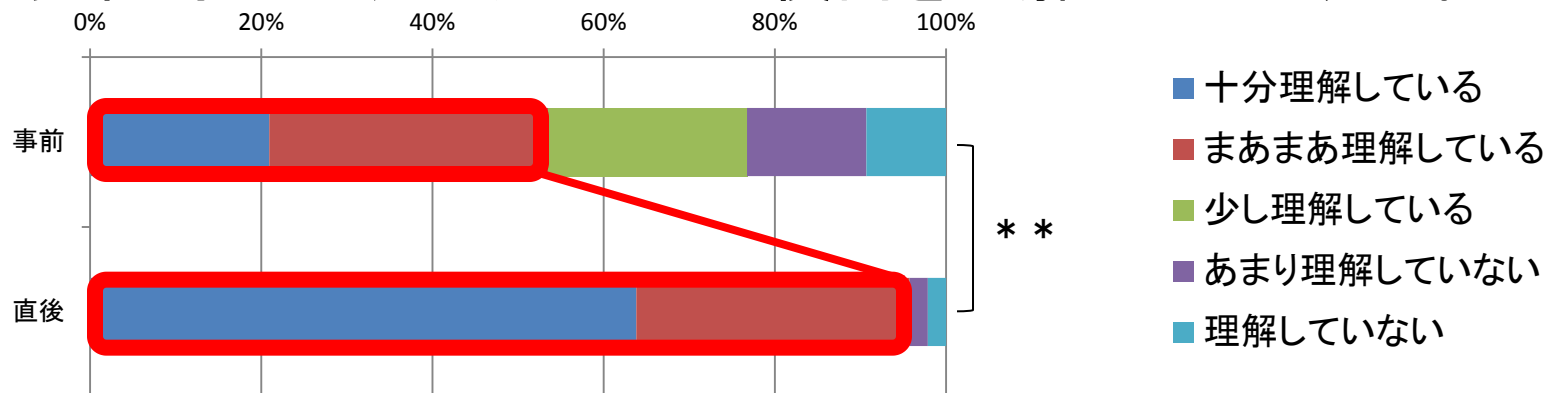
「自助」「共助」による被害の対処方法を理解・習得する。

パイロット事業の実施効果分析結果

(事前・事後アンケート調査より一部抜粋)

2回の合計値

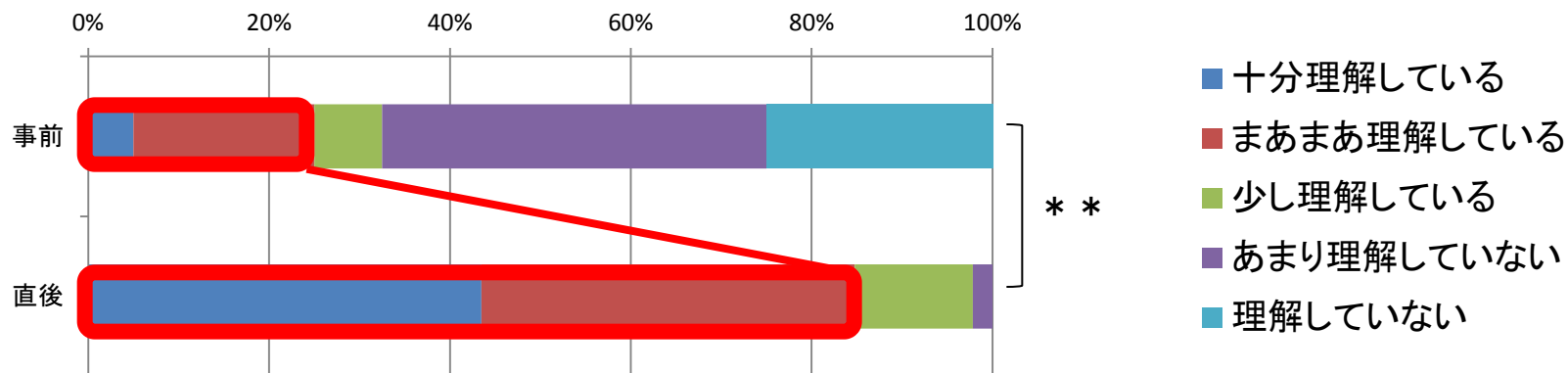
Q 災害時の地域のリーダーの役割を理解していますか。



Q 大規模地震が発生した場合、あなたの町ではどのような被害が発生するか理解していますか。



Q 災害時、倒壊した家屋から生き埋め者を救出する方法を理解していますか。



地域のリーダー像

- 救出・救命の時期



専ら近隣住民の間で、行動的で声が大きく、人に指示して動かすことが得意なタイプの人々が、個人的資質を生かして自然とリーダーの役を担う

平時のつながりを基礎に、自ら率先して、あるいは周囲の人の協力を得ながら

自らの居住場所付近で、近隣住民の安否確認、生き埋め者救出、二次災害防止や要配慮者対応など、緊急性の高いニーズに対応

地域のリーダー像

- 避難所生活の時期



普段から地域住民や地域内組織とのつながりを有し、世話好きで面倒見がよく、顔が広い人が、組織内での立場や指名に基づきリーダーの役を担う

リーダーをサポートする組織の人々と相談しながら地域内や外部からもたらされる資源を活用して

避難所の管理運営や高齢の自宅避難者に対する食料や水の提供などの活動を行う

子供にも正しい防災知識を



幼いうちは、純真で周囲の影響を受けやすい。
だから世の中の悪いことは見聞きせず、悪い言葉
も使わせず、良いものだけを与えよ。

この時期に、良いものを身に付けておけば、
悪いものに触れ（対し）ても正しい判断（行動）
ができる。

子供も防災



企業も防災を

1. 企業全体(法人という人)として

- 企業は法人であり、1つの人格を持った仮想の人
- 仮想であっても人である以上、それぞれが所在する地域で共助の担い手として果たさなければならない役割がある
- 本店、支店・支社、営業所、工場等の生産拠点、従業員寮など、それぞれの地域で共助の担い手となることが求められる
 - 例：阪神・淡路大震災で、阪急の社員寮の若手従業員が発災直後、自発的に地域住民の救出活動にあたった。地域住民はそれを鮮明に覚えている

企業も防災を

2. 従業員一個人として

- 企業は従業員＝人によって構成されている。人は企業の大切な財産
- 災害によって財産を失うことは大きな損失
 - 例：岩手県陸前高田市役所は3.11で440人の職員中111人を亡くしたが、その多くは40代、50代であった。中心となる人材を失ったことが、その後の復興の大きな妨げになっている

企業と地域コミュニティの良い関係づくり

- 防災をコストとしてではなく企業価値を高める投資と
考えてみる
- 地域コミュニティにとっても企業・従業員が自助・共助
の力となってくれることは極めて有益
- 公共性の高い「Win－Win」の関係が構築される
- 企業及びその従業員が、「善き公の担い手」として、
地域で防災力の向上に寄与することが重要

社会課題に対する 日赤の取組みのキーワード (3つのコム)

- 
- ・ Community (コミュニティ)
 - ・ Communication (コミュニケーション)
 - ・ Commitment (関与)

人道の敵とは

- ◆ 利 己 心
- ◆ 無 関 心
- ◆ 認 識 不 足
- ◆ 想 像 力 の 欠 如



(J.S.ピクテ 『赤十字の諸原則』)

